棚尾まちづくり事業
平成 23 年 7 月 19 日（火曜日）

第１回　棚尾の歴史を語る会　次第

進行（小笠原　幸雄）

1　テーマ１　「弥生の井」

⑴　資料説明（磯貝　国雄）

⑵　出席者による補充説明、感想など

2　テーマ２　「盆踊り」

⑴　資料説明（磯貝　国雄）

⑵　出席者による補充説明、感想など

3　今後の進め方

テーマ
発表者
日時、場所
会の進行方法など
将来目標：仮称「棚尾物語」製作

4　次回日程

第 2 回　 8 月　23 日（火曜日）　「火の見やぐら」「杉村修平」
第 3 回　 9 月　　日（　曜日）　・・・・・・　次号かわら版で知らせる。
第 4 回　10 月　　日（　曜日）　・・・・・・　　〃

棚尾の歴史を語る会　テーマ１

「弥生の井」

１　要旨

八柱神社境内の西斜面に、昔酒造りに使った井戸がある。現在は４基が残っているが、往時は十幾つかあり、各酒造場は一つずつ持ち、専属の水ひき人が桶で運んでいた。しかしながら、伊勢湾台風以降、水質が悪くなったのと上水道が完備されたため、現在は使われていない。この井戸を大正 14 年に熱田神宮宮司が「弥生の井」と名づけた。達吉の歌の中にもこれを歌ったものがある。これにちなみ、昭和４８年現在の新町名を設定するにあたり「弥生町」と制定した。

２　八柱神社の石碑

八柱神社境内に「弥生の井」の石碑がある。昭和 51 年に亥子朋友会（昭和 10、11 年生まれ）が四十二の厄年に寄贈したものである。石碑に刻まれている文面は次のとおりである。

「八柱神社の境内に数箇乃井阿(あ)り湧き出る清水滾滾登志(こんたぎとし)て絶えす(ず)近隣乃酒造家古(いにしえ)の水を用ゐて醸造乎(を)営むに楚(そ)乃酒最も美味(うま)し是(これ)禮神徳能然(のしから)ら志(し)む累所(ところ)と稱(となな)へつつありき今回有志の請(こい)に依(より)里名を彌生乃井登(と)名つ(づ)けて歌一首を書添ふるにな舞(む)

湧きい豆(ず)る彌生の水能(の)以やまし爾(に)

堂(た)え奴(ぬ)そ(ぞ)神乃(の)め久(ぐ)美(み)な里(り)介(け)流(る)

大正十四年九月吉日　熱田神宮　宮司　野田菅麿(すがまろ)書　㊞」

石碑寄贈者　氏名　亥子朋友会（昭和 10、11 年生まれ）

青木　熊二	伊比　淳一	井上　政美	石川　正人	石川　元治	
板倉　義彦	井上順一郎	長田　弘	小笠原守夫	小笠原和三郎	
小笠原　隆	大島　堅一	小沢　卓夫	古久根務夫	古久根　律	
榊原　久夫	榊原　史郎	榊原　昇	榊原　達夫	榊原　保	
斎藤　実	斎藤　繁司	斎藤　終次	斎藤　正雄	清水　秀夫	
清水　英和	芝田　実	杉浦　吉一	杉浦　保男	杉浦　敏秋	

杉浦　　勇　杉浦　金正　杉浦　邦夫　杉浦　一博　鈴木　清之
鈴木　　豊　角谷　　弘　永坂　　進　永坂　憲司　永坂　良一
永坂　計義　永坂　仁一　永坂　道則　永坂　　茂　永坂　義治
永坂　三男　永坂　賢二　永坂　嘉久　永井　保則　永井　只利
永井　滝夫　永井　高司　中根　照生　南谷　政雄　平岩　昌二
松原　　収　三島　　勇　三島　達雄　三島　行雄　山田　　弘
山本　　巌　安井　弘光

３　井に関する資料

⑴　南中学校郷土部作成

昭和 37 年度　私たちの郷土研究（五）5 号記念特集　「酒づくりの唄」
碧南市立南中学校郷土部（村瀬正章先生指導）　から抜粋

「棚尾の八柱神社の西には十いくつかの井戸がある。酒屋さんは一つずつ井戸を持ち、仕込みの時期になると、それぞれの蔵に運んだ。これらの井戸の水を使うと火持ちがよいといわれたが、それはその水質のせであろう。棚尾に昔から酒や味醂をつくる家の多いのも、このためと思われる。

藤井達吉も

産土の　神の御庭の　水くみて
にないて水のむ　音のしたしも

と詠んでいるが、伊勢湾台風後は、もうこうしたことも行われなくなった。」

４　お聞きした話

・残っている四つの井戸は、南から永井酒造、長田酒造、鶴亀酒造、相生酒造である。
・各酒造場は盛んな頃、専属の水引き人足を抱え、大八車で桶を積んで運んだ。その人は、他の仕事はしない。
・毎年 11 月頃、井戸を使い始める前に井戸替え掃除をした。
・しかし、伊勢湾台風で水質が悪くなり、水質検査をした結果、塩分が多かったりして使われなくなった。その後一時、鶴亀さんが使われようとした

ことがあった。

・昭和５１年、神社斜面の石積み工事をするため、井戸のかさ上げが必要となり、持ち主に、今後使う予定のある人はかさ上げするよ連絡したところ、４軒がかさ上げし、残りの人は埋めて廃棄した。

・夏の終わりの「不動まつり」にはこの井戸にもお化けなどの「飾りもん」がかかった。

・見に行った記憶がある。井戸には屋根型の覆いがあった。

５　新町名設定

新町名制定　昭和 48 年（1973）4 月 1 日

棚尾、大浜地区に新町名地番設定

新町内会制度発足　昭和 63 年（1988）4 月 1 日

棚尾の歴史を語る会　テーマ２

「盆踊り」

１　要旨

今年も盆踊りの季節がやってきます。今年も町内会長さんを中心に多くの実行委員の方が準備してみえます。この盆踊りは、私たちの夏の思い出に欠かせない年中行事ですが、いつごろから、続いているのでしょう。今は故人となられた妙福寺前住職加藤良信さんの書かれたものによると、昭和９年（1934）か１０年(1935)だったそうです。又、近年の踊り曲や棚尾に関する唄の歌詞もまとめてみました。この様な盆踊りにまつわる楽しい話を、語り合いましょう。

２　現在の実施方法

⑴　運営組織

「盆踊り実行委員会」の主催。委員長は棚尾地区正幹事で、構成団体は次のとおりです。

町内会長、部長及び健康推進員、商店街振興組合、妙福寺、愛知県中央信用組合、再青会、こども会、青少年育成推進員、民生児童委員、交通安全協会、消防団、日赤奉仕団、保育園母の会、幼稚園ＰＴＡ、棚小ＰＴＡ、南中ＰＴＡ、豊青会、公民館

⑵　開催日

８月１４、１５日　　稽古は　月　日から

⑶　開催場所

妙福寺境内

２　盆踊りの変遷

⑴　文献資料　「碧南文化」　№113 号　昭和 46 年 7 月　碧南市文化協会発行

「お盆あれこれ」　妙福寺住職　加藤良信

年々歳々同じ事ながら今年も又、夏ともなれば暑い毎日が続き、そしてお盆がやってくる。

盆とは盂蘭盆。梵語であって訳して懸倒苦を救うという。苦しみにも色々あるが、最も具体的には逆さに吊るされる苦しみと表現すればよく分かる。その起源は印度で

あって、中国に来て中元になり、日本に来て盆祭りとなって正月三が日と同じように盆三日間皆、仕事を休んで仏事を営み、一家団欒する。昔は陰暦であったものが、太陽暦に統一されたことによって時季風物の変遷のずれがあって、どうもぴったりしないものがある。旧暦７月１５日ともなれば、たいていの年、立秋（新暦８月８日）を過ぎて、秋の気配を感ずる朝夕である。従って夜空の美しい星の輝き、月光の冴えなど墓参りにも盆踊りにもふさわしい。そこで７月盆を一ヶ月延ばし、８月にすれば時季的にほぼ旧暦に近くなって、秋の気配になるが、夜空に月がないことがある。盆には、盆のような月がという形容の通りに澄んだ月があり、赤いほおずき提灯の墓参りも盆踊りも興が乗るわけである。闇夜の盆ではどうも幻滅であるが仕方がない。そういうことが時々ある、今年も８月１５日は旧暦２５日だから闇夜の盆を迎えねばならぬ。月や夜空に関係のある行事であり、民間の習俗や仏教行事であるから、旧暦のほうがしっくりする。今更改めようもないが、毎年そうした郷愁を感ずるものである。

それはそれとして、盆ともなれば、今は亡き数々の人達の事が思い出される。平岩翁、大亀さん、太田さん、かね与さん、鉄源さんそして長田半太郎さんである。何れも良き友であり、又、良き師でもあった。特に長田半太郎さんについては、数々の忘れられない思い出があるが、やはり一番忘れられないのは盆踊りの事である。
私が最初に盆踊りを思い立ったのは確か昭和９年か１０年頃であったと思う。半太郎さんに相談したら結構な事だ、出来るだけ応援するから是非やれと励まされて実行に移った。

早速、青年団、婦人会に呼びかけて新書院で練習を始めたところが練習に集まっても、いよいよ本番になると、皆尻込みして、何とも格好がつかない始末。そこで、今天道保育園々長榊原衣子さを引っ張りだしたものだ。当時は未だ小学三年か四年だった。そして、友達を集めてもらって、それを主軸にして、小学生を中心に練習本番と仲々骨の折れる仕事だった。

当時は、寺の小僧として、小中学生が２～３名、それとお出入りの人々に手助けをしてもらって、お茶を濁したものだ。それでも結構大勢の子供達が集まって、総勢１５０人から２００人位迄ふくれ上がり、そのお駄賃も大変なものだった。それを半太郎さんが殆ど面倒を見てくれた。勿論、常連みたいで寺に遊びに来て居られた平岩翁、大亀さん、かね与さん、鉄源さん達も励まして援助して頂いたものだが、今は皆、その人達は故人になられた。

すでに三十数年も前のことで、殆ど記憶も薄らいで、余り正確ではないが、毎年の

事ながら、お盆になり、盆踊りが始るとそうした思い出が懐かしくも又、淋しくもある。(以下省略)

⑵　お聞きした話

・　９１歳のおばあさん：昭和７，８年にはあった。「盆はうれしや、別れた人が会いに来る」という歌詞があったと思う。

・　昭和２７、２８年頃、会場が妙福寺ではなく保育園であった記憶がある。

・　昭和４５年は開催されなかった。

３　踊り曲の変遷

最近の曲目を拾ってみると次のようです。

元気ッスへきなん　　碧南音頭　　新碧南音頭　　碧南木遣り節　　棚尾節

棚尾音頭２００２　　棚尾公民館音頭

泳げたいやきくん　　ドラえもん音頭　　東西南北音頭　　日本全国おはやし音頭

万博音頭　　交通安全音頭　　花火音頭　　２１世紀音頭　　マツケンサンバⅡ

大昭和音頭　　しんちゃん音頭　　龍馬おどり　　平成音頭　　花の盆踊り

ふるさとばやし　　世界に一つだけの花　　お祝い音頭、

炭鉱節　　郡上節　　木曾節

４　棚尾に関する唄

棚尾に関する曲の歌詞をまとめてみました。

⑴「棚尾節」(チンチロリ節)

一　棚尾よいとこ　何日また来ても　(サン　ドッサイエー)

義理と人情のナー　(ソジャ　ヨーイヤナー)

花盛りノ　(チンチロリが　カンチロリンで　オーサ　ジョダ　ヤーラエー)

以下（　）内の囃子は省略

二　一夜権現の　唐傘松は

松は　枯れてもナ　名は残るノ

三　目出度　目出度が　三つ重なれば

下の目出度がナ　重たかろ

四　雉子のめんどり　小松の下で
　　夫を呼ぶ声ナ　千代千代とノ

五　舟は新造で　乗りよいけれど
　　古木新造でナ　アカがさすノ

⑵「棚尾音頭」　　作詞、作曲　岩槻三江

一　ハァ　向う鉢巻ナ　アリャサ　姉さんかぶり
　　棚尾音頭いきな音頭でエ　チョイト弾みゃんせ
　　ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

二　ハァ　君がなさけとナ　アリャサ　八柱さまの
　　水はくめども心くめどもエ　チョイト尽きはせぬ
　　ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

三　ハァ　月の三日はナ　アリャサ　毘沙門さまへ
　　運の向くよに福の向くよにエ　チョイト開くよに
　　ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

四　ハァ　海へひろがるナ　アリャサ　矢作の口を
　　きりりとしめたかそっとしめたかエ　チョイト棚尾橋
　　ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

五　ハァ　あおみ平（だいら）はナ　アリャサ　いつでも春よ
　　南風（まぜ）はそよそよ若葉そよそよエ　チョイト日は晴れる
　　ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

六　ハァ　浜は凪（なぎ）かやナ　アリャサ　星降る宵に
　　笛の音をきく糸の音をきくエ　チョイト源氏橋
　　ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

七　ハァ　虫がはやせばナ　アリャサ　すすきは踊る
江川づつみの矢作づつみのエ　チョイト夜は更ける
ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

八　ハァ　御神明山（おしめやま）へとナ　アリャサ　降りつむ雪は
恋の重荷の傘の重荷のエ　チョイト謎じゃやら
ソレヨイヨイヨイトサノハアリャサ　ヨイトナァ

⑶「棚尾小唄」　作詞　古久根蔦堂、永井賓水　合作
作曲　岩槻三江

一　あおみ平の真日南（まひなか）うけて　寒さ暑さもほどほどに
水と陸（くが）とに宝は余るエ　棚尾よいとこササおいで

二　一つ心に昭和の楽土　ものを作ればよいみのり
品を集めりゃいや増す繁昌エ　棚尾よいとこササおいで

三　かすむ矢作の川口はるか　先へ干潟は伸びて行く
恋はやすやす拾える貝の　棚尾よいとこササおいで

四　涼し夜風につい誘われて　源氏橋までそぞろ足
星が降るやら袂がぬれるエ　棚尾よいとこササおいで

五　月に竿さし江川を上りゃ　岸の千鳥が穂で招く
そっと呼ぶのは君まつ虫かエ　棚尾よいとこササおいで
六　湖のさしひに心はかけぬ　棚尾大橋凍るとも
ぬくい情に鳴く小夜千鳥エ　棚尾よいとこササおいで

七　志貴の毘沙門いかめし姿　粋なご利益縁結び
御礼まいりを恥ずかしながらエ　棚尾よいとこササおいで

八　ところ鎮めの八柱さまは　松の緑か真清水か
　　千代に栄えて変わらぬ色よエ　棚尾よいとこササおいで

⑷　棚尾公民館音頭

一　そうだなんエー　そうだなんエー
　　ハァー　棚尾よいとこ　南と北の　虹の架け橋なかどころ
　　夢の○○　　夢の○○　公民館でたたく○○　郷土愛
　　そうだなんエー　そうだなんエー

二　そうだなんエー　そうだなんエー
　　ハァー　○○○　　矢作の河口　まちが自慢の毘沙門天に
　　弥生の井戸の　弥生の水の　八柱神社　響く○○の懐かしや
　　そうだなんエー　そうだなんエー

三　そうだなんエー　そうだなんエー
　　ハァー　明日の碧南　おらとで築こう　老いも若きも共々に
　　心豊な　心豊な文化のまちを　今日も使おう公民館
　　そうだなんエー　そうだなんエー

3　今後の進め方

⑴　テーマの例示

取り上げるテーマの例示であるので、不要なものは削除したり、この他に考えられるものを加えたりする。例会時に順次、次回以降数回分のテーマを決める。

（文化）

永井賓水と俳句結社アヲミ

棚尾に残る句碑と歌碑

記念碑

棚尾で見ることのできる達吉の作品と鶏頭忌行事

棚尾の碧南市指定文化財

棚尾に関する古文書一覧、

昔をしのぶ建造物（蔵六庵、旧役場の広報舎ほか）

弥生の井

（産業）

棚尾の医者

棚尾商店街

棚尾の農産物・農協の沿革

銀行の沿革

酒・味醂造り

瓦・コンロなど窯業、

鋳物業

醸造業

土人形

映画館　三栄座

花街

塩田

その他の産業

（人物）

永坂杢兵衛、

平岩種次郎

藤井達吉

加藤平五郎　　由仁町開拓者

清見潟又市　　大相撲

杉浦治助

斎藤倭助

長田家と源氏の地名

安藤円秀

高木賢立、高木晃敬

（まちの沿革）

棚尾の歴史、中世、江戸時代、明治、大正　人口初め統計資料、

志貴荘、

村の分離　新川・東浦・中山

（現在及び過去の団体紹介）　名簿も収集

村の組織、町の組織

消防団

こども会

老人クラブと憩いの家

青年団

婦人会

八柱神社氏子総代

日赤奉仕団

各ＰＴＡ

その他の団体

（社寺）

妙福寺

安専寺

光輪寺

八柱神社

棚尾神社

琴平社

秋葉社

若宮社

その他の宗教団体

旧字のお地蔵など（西山組、森組、中道組、源氏組、堀切組、汐田町）など

個人で祀られている地蔵さん、弘法さん、観音さんなど

秋葉山常夜灯

（公共施設）

棚尾小学校、門扉

棚尾中学校、南中学校

棚尾保育園、

棚尾幼稚園、

郵便局、郵便ポスト

役場の変遷

棚尾公民館

棚尾ふれあい館

昔の駐在所

火の見やぐら

棚尾駅と三河線

バス、馬車路線

（地形）

昔の地図

昔の字名と新町名

昔の道路と河川

棚尾村道元標と道しるべ、

棚尾橋

その他の橋　源氏橋、子種橋、志基崎橋

平七区画整理事業

雨池区画整理事業

（行事）

盆踊り

敬老会

チャラボコ

神楽

福助踊り

棚尾の民話

習いごと

（生活）

棚尾の食べ物

棚尾言葉

結婚式、葬式、仏事などの変遷

子供の遊び、

（災害の記録、現在の防災設備）

三河地震

伊勢湾台風、十三号台風

貯水槽及び消火栓の場所

防災設備の場所

自主防災会

⑵　説明担当者

テーマの発表者は、出来るだけ多数で分担する。複数でもよい。

⑶　日時・場所

時間は 1 時間 30 分程度

かわら版で周知する。

⑷　会の進行方法など

- 毎回、2 テーマ程度の発表。
- テーマについて、出席者が、知っていることや感想を話しあい、テーマに関する資料を積み上げ、内容を充実させる。
- 後で分ったことのある人は、次回以降の例会で発表する。
- 写真、テープその他ＯＡ機器を使った説明も歓迎。

⑸　将来目標として仮称「棚尾物語」の製作

この会の資料をまとめ成果品として残すため、会合がある程度進んだ段階で、仮称「棚尾物語」編纂会議を組織して、冊子製作を目標にする。